

ゼミナール

再生可能エネルギー

今回は、カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの導入とその変動をカバーするための定置用蓄電池の活

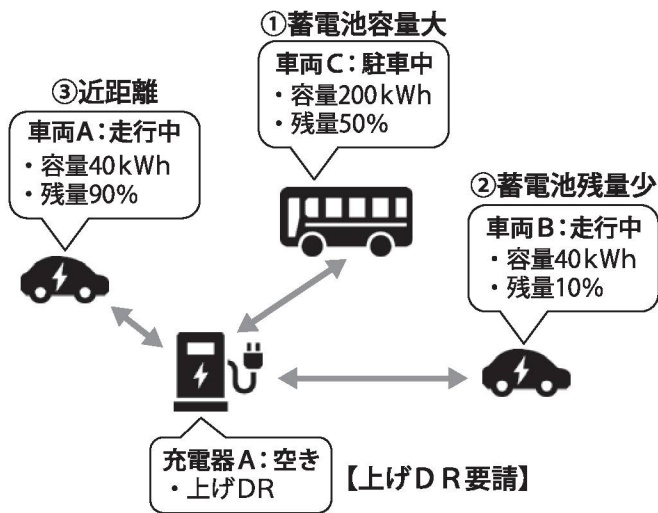


図 上げDRにおけるユースケース

走行中も残量遠隔把握 再エネ有効活用の道に

用、および国内外の電証事業では、充電器に関するデータを活用できる規格の策定、例えば「EVが接続された後」のVを定置用蓄電池の代わりとして活用するたる時でもEVの蓄電池の状態を遠隔把握でき、充電設備までの距離や蓄電池残量などを踏まえた車両案内など、需給調整に関する更なる活用が期待でき、現状では蓄電池状態を表すデータ形式が車種によって異なるなど、このよう

①多数台の車両を一元管理できる②走行経路がほぼ定まっている③バスなどに搭載される大容量の蓄電池を利用できる——等の利点がある。このため当所では、NEDOのグリーンインベション基金事業の一環である「スマートモビリティ社会 (隔週で掲載します)」

【当所の取り組み】

電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 EN-IC研究部門 上席研究員

【走行しているEVの蓄電池状態を把握】我が国では、EVの急速充電規格としてチャデモ方式が普及している。しかし、現状では蓄電池状態を表すデータ形式が車種によって異なるなど、このよう

【当所の取り組み】我が国におけるEVの累計登録車販売台数は、2022年1月〜10月までの期間で2万4千台に、さらに軽EVも合わせると4万台にもなり、国産



名雪 琢弥

なゆき・たくや 1994年度入所、専門はパワーエレクトロニクス。博士(工学)